

# 琉球大学学術リポジトリ

## 琉球産 Elaphe 属 (Ophidia, Colubridae) の2種について (予報)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政工学部 公開日: 2011-12-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高良, 鉄夫, Takara, Tetsuo メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/22551">http://hdl.handle.net/20.500.12000/22551</a>

琉球産 *Elaphe* 属 (Ophidia, Colubridae) の  
2 種について (予報)

高 良 鉄 夫\*

Tetsuo TAKARA: Two species of *Elaphe* (Ophidia, Colubridae)  
from Ryukyu Islands (Preliminary report).

は し が き

従来琉球列島から報告されている *Elaphe* 属 (ヘビ目) のものは *E. carinata* (GUENTHER) シウダおよび *E. schmackeri* (BOETTGER) サキシマスジオの 2 種だけである。前者は尖閣列島に、後者は宮古島、石垣島、西表島に産する。筆者は最近前述の 2 種の他に新に 2 種産するを知り得たので、ここにその概要を報告する。

本稿を草するに当って御協力下された前新加太郎 (与那国中学校長), 宮良孫好 (与那国測候所長), 久部良昭光 (与那国中学校教諭), 仲宗根盛栄および安座間喜勝 (那覇高等学校教諭) の各氏に対し深く感謝の意を表する。

*Elaphe* sp. (a) figs. 1-2

筆者は与那国島産の *Elaphe* sp. 数匹の寄贈を受けた (第 1 表参照)。その特徴は次の通りである。

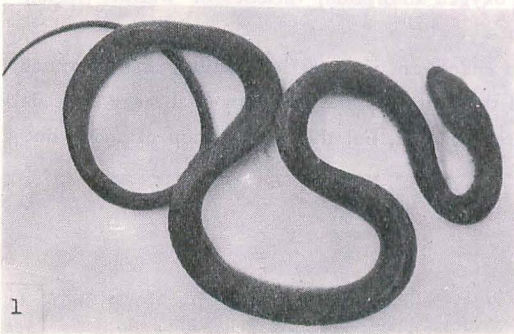


Fig. 1. *Elaphe* sp. (a), Male, Yonaguni Island  
(Coll.; S. KUBURA, Aug. 31, 1956).

眼前板 1 枚, 眼前下板 1 枚, 眼後板 2 枚, しょう顚板前列 3 枚 (または 2 枚), 後列 4 枚 (または 3 枚), 上唇板は 8 枚で, その中第 4~5 は眼に接する。前咽頭板は後咽頭板と同長なるか, または後咽頭板より短い。下唇板の第 1~4 (または第 1~5) は前咽頭板に接する。第 1 下唇板相互の縫

\* 琉球大学農家政工学部農学科

合線は第 1 下唇板と頤板との縫合線より長い (稀に同長)。体鱗 25 列 (前方 26 または 27 列, 胴の中央部 25 列, 後方 21 または 20 列, 肛門の近くでは 19 列, その最外側 2 列を除く他はすべて 1 個の竜骨がある。腹板 217~220 枚, 尾下板 96~99 対。

色彩 体背面は淡褐色乃至黒褐色。最中央の 1 鱗は 5~6 鱗おきに黒緑色を呈するが, これは後方に至るに従い消失し, また個体によっては全然認められないものもある。最外側から数えて 4~5 鱗列目 (後方では 3~4 鱗列) は褐色を呈し, そのため両側面には各々 1 条の縦線を形成する。この縦線は前方に至るに従い消失し, また体背面黒褐色のものでは認め難い。腹面は黄緑色を呈し, 各腹板には不規則な黒緑斑があるが, これは後方に至るに従い不鮮明となる。

## 測定

Table 1. Measurements of *Elaphe* sp. (a)

No.	Total length (mm)	Length of tail (mm)	Ventrals	Analals	Subcaudals	Supralabials	Scale rows	Sex	Date	Collector	Localities
1	613	131	217	2	99	8-8	25	Male	Aug. '56	S. Kubura	Yonaguni-jima
2	680	145	220	2	97	8-8	25	Male	May '57	K. Maeara	Ditto
3	870	178	219	2	99	8-8	25	Male	May '58	S. Miyara	Ditto
4	2000	400	220	2	99	8-8	25	Male	May '58	S. Miyara	Ditto
5	860	174	217	2	96	8-8	25	Female	Aug. '58	K. Maeara	Ditto

本種は一見 *E. carinata* シウダに似ているが, 次の諸点で明かに区別される (第 1 表および第 2 表参照)。即ち *E. carinata* の体鱗は 23 列であるが, 本種の体鱗は 25 列を数う。その他尾下板の数, 第 1 下唇板, 前咽頭板などに異った様相が見られるので, 恐らく新種であると思うが, 今後更に多くの資料を入手し検討してみたい。

Table 2. Comparison of ventrals and subcaudals of the *Elaphe* sp. (a) and *E. carinata*

Species	Localities	Sex	No. of specimens	Ventrals		Subcaudals	
				Extremes	Average	Extremes	Average
<i>Elaphe</i> sp.	Ryukyu (Yonaguni-jima)	Males + Females	5	217-220	218	96-99	98
<i>E. carinata</i>	Ryukyu (Senkaku Is.)	Males + Females	7	209-222	214	80-92	85
	Formosa	Males + Females	6	208-221	214	78-97	89

**Elaphe sp. (b)**

1958年5月21日沖繩本島国頭村比地から那覇高等学校生大城幸明氏らによって1種の大蛇(体長210cm)が捕獲された。しばらく飼育していたが斃死したので骨格標本を作製されたようである。当時筆者は先島出張中であつたので、その生体を見る

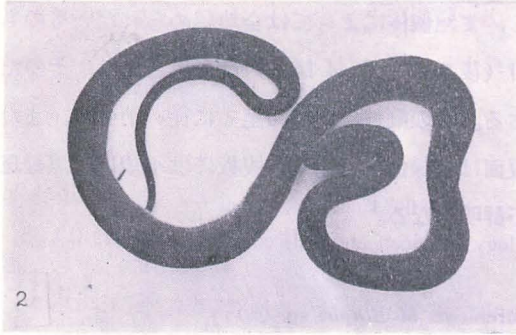


Fig. 2. *Elaphe* sp. (a), Female, Yonaguni Island (coll.; K. MAEARA, Aug. 10, 1958).

ることではできなかったが、幸にはほぼ完全な骨格標本と約40cmおよび30cmの胴部の皮が2片残されていた。これらのものを調査した結果、その椎骨数は胴部253、尾部76(中断)。体鱗23~25列(胴の前部?)および21~19列(胴の後部?)、背中央の15列に1個の弱い竜骨があり、かつ各鱗

に1対の鱗孔がある。

体長 全長2100mm, 吻端から肛門まで1624mm(骨格標本による), 尾長332mm(中断, 骨格標本による)。

歯式 歯骨歯14対, 口蓋歯, 上顎歯および翼骨歯は未詳。

色彩 体背面は黄橙色を呈し, 胴の前部では黒色の波状紋が概ね2列にならび, 胴の後部では黒色菱形の斑紋が4列にならんでいる。各腹板も黄橙色を呈し, その基部を除く他は殆んど不整形の黒色横斑でおおわれている。

骨格の形態, 体色, 斑紋, 捕獲者による知見等を総合してみると本種は *E. schmackeri* サキシマスジオに似ているが, 体鱗列数, 歯骨歯の数および竜骨の列数などその様相を異にするので区別される。これは *E. schmackeri* の亜種か, または近縁の新種に該当するものと思われるが, 生体を得た後更に検討したい。かつて今日まで沖繩本島から *Elaphe* 属は記録されていないので, この種の発見は極めて意義深いものがある。

**考察および摘要**

1. 沖繩本島および与那国島から採集された *Elaphe* 属の2種について, その特徴の概要を収録した。

2. この2種は新種または新亜種と思われるが, 更に多くの資料を得て検討すべく

予報として述べた。

3. 従来琉球列島 (奄美群島, 沖縄群島, 先島群島) における *Elaphe* 属の分布北限は宮古島であったが, 今回沖縄本島から発見されたのでその分布北限が拡大された。

4. 分布北限が拡大されたことによって, *Elaphe* 属のものが南支, 台湾, 先島群島および沖縄群島を経て北上したことが一層明確となった。

5. *Elaphe* 属のものは将来奄美群島から何等かの形で発見される可能性がある。

#### 参 考 文 献

1. MAKI, M. (1931, '33): A monograph of the snakes of Japan.
2. STEJNEGER, L. (1907): Herpetology of Japan and Adjacent Territory. Bull. U. S. Nat. Mus., No. 58.
3. 高良鉄夫 (1954): 尖閣列島の動物相について. 琉球大学農学部学術報告. 1, 57~74.
4. 高良鉄夫 (1955): 琉球における数種のヘビ類の分布. 琉球大学農家政学部学術報告. 2, 80~93.

#### Résumé

1. A summary on distinctive features of the two species of *Elaphe*, collected from both Okinawa proper and Yonaguni Island, is listed.
2. Though these two species are seemed to be either new species or new subspecies, this report is presented as preliminary one to study further with many more references.
3. Miyako Island was thought as the north boundary of *Elaphe* in the Ryukyu Islands (Amami Islands, Okinawa Islands, and Sakishima Islands inclusive), but its north boundary has been broadened now since it was found in Okinawa proper.
4. This fact assures more strongly that *Elaphe* distributed to the north through South China, Formosa, Sakishima Islands, and Okinawa Islands.
5. *Elaphe* will possibly be found in Amami Islands in the future.